

## 15 かなひろいテスト物語文におけるキーワード毎の想起される割合について —短期大学女子学生での検討—

阿志賀大和, 本間和代<sup>1</sup>, 小野真奈美<sup>1</sup>, 大平芳則  
明倫短期大学 保健言語聴覚学専攻, <sup>1</sup>歯科衛生士学科

keywords : かなひろいテスト, 内容把握, 想起率

### はじめに

臨床において, 注意機能や前頭葉機能を評価する方法の1つとして, かなひろいテストが広く用いられている。かなひろいテストは, 無意味綴り課題と物語文課題(物語文)があり, いずれも文字群の中にある「あ・い・う・え・お」の全てに○をつけ, その作業数, 正答数, 誤答数から評価を行うものである。また, 物語文では, 物語の内容把握も求められる。しかし, 正常者の基準値や年齢群ごとの平均値, 内容把握率はこれまでに求められているが, 物語文におけるキーワード毎の想起される割合について調査した先行研究は, 調べた限り見当たらない。そこで, 注意機能や前頭葉機能を評価する際の, 基礎データ提供を目的に, 物語文におけるキーワード毎の想起される割合を検討した。

### 対象および方法

対象: 高次脳機能に影響を及ぼす疾患の既往がない若年女子学生20名(平均年齢20.2±1.9歳)。

方法:

1. かなひろい課題と同時に物語文を読んでいることを確認するため, 音読にて行った。
2. キーワードごとに想起される割合を検討するため, 物語文については2分間で終了せず, 全文を音読してもらった。
3. 課題実施後, 速やかに内容について口述してもらった。
4. キーワードは, 浜松式高次脳機能スケール実施手引きに記載されている語(手引き語)と, 独自に加えた, 本文中の重要な語句であると考えられる語(独自語)の合計16語とした。

### 結果および考察

結果: 全被験者の平均想起語数は,  $6.2 \pm 2.4$ 語であった。キーワード毎にどの程度想起されたかを図1に示す。最も多く想起された語は, 「おばあさん」と「つぼ」であり, 全ての被験者が想起していた。次に多く想起された語は手引き語の「びんぼう」, 「そのひぐらし」, および独自語の「はな(をいける)」で5~6割の者が想起していた。一方で, 独自語の「げんきでようき」は最も想起される割合が低く, 手引き語においても, 「つかいはしり」のように想起される割合の低い語があった。

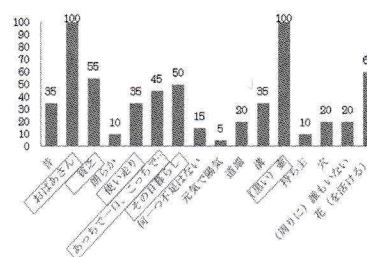


図1 キーワード毎の想起された割合

□で囲われた語は手引き語であることを示す。

考察:

図1に示すように, キーワード毎に想起される割合は異なることが確認された。最も多く想起された語は, 「おばあさん」と「つぼ」であり, これらは物語文の内容把握において重要な語であると考えられる。

このような難易度の差が生じる理由については, 今回の被験者数および被験者の年齢層だけで十分な検討を行うことは難しい。しかし, 今回得られた結果は, 同年代の脳損傷患者や発達障害者の臨床データを解釈するうえで重要な情報になると考えられる。

### 参考文献

- 1) 今村陽子: 臨床高次脳機能評価マニュアル 2000, 43-51, 新興医学出版社, 2008